



平成 27 年 10 月 15 日

各 位

会社名： アサヒ衛陶株式会社
代表者名： 取締役社長 町元 孝二
(コード番号： 5341 東証第二部)

問合せ先： 執行役員 丹司 恭一
企画管理部長

電話番号： 072-362-5235

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 7 月 15 日に公表いたしました平成 27 年 11 月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

平成 27 年 11 月期通期(連結)業績予想数値の修正(平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,070	百万円 △40	百万円 △35	百万円 △58	円 銭 △4.01
今回修正予想(B)	2,800	△128	△124	△138	△9.54
増減額(B-A)	△270	△88	△89	△80	
増減率(%)	△8.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 11 月 期)	3,237	38	47	35	2.44

2. 通期連結業績予想修正の理由

売上高につきましては、第3四半期までの実績を踏まえ、弊社の主要販売チャンネルの直近の状況に鑑みて見直しを行いました。

- ① 東日本を中心としたホームセンター販売チャンネルに於いて、競合他社との価格競争が激化し当初想定していた売上げの確保が厳しくなってきた事により、この部分の売上高 220 百万円の減少が見込まれます。
- ② 与信管理の強化を行った事により この部分の売上高 50 百万円の減少が見込まれます。

上記の売上高の減少により、営業利益 70 百万円の減少が見込まれます。

来期以降の業績回復の手立てについて

- ① インバウンド向（特に中国向け）の温水洗浄便座の開発が終了し平成 27 年 11 月より発売開始となる見通しとなりました。年間 500 万人に迫る中国人観光客への販売と平行して、中国国内での輸出の販路も確定しており年間 15,000 台程度の販売を予定しております。
- ② 平成 27 年 12 月より、Photo Dresser（仮称）を発売する予定です。本製品は個人顧客の要求に応じて、「有名絵画・デザイン画・ペットなどの個人写真」を、洗面化粧台の扉に亚克力板を使用しオーダーメイドするものです。予めライセンスを取得した有名キャラクターについても販売予定です。
本製品については、年間 2,000 台程度の販売を予定しております。
尚、本製品は「実用新案」申請中であり数ヶ月中には申請許可予定です。
- ③ 従来、外注サプライヤーに依存していた中級洗面化粧台用の人工大理石天板について、平成 27 年 10 月より ベトナム・ホーチミン市郊外にて自社運営の工場を開設しており、小ロット対応を武器にハウスメーカー・ビルダー・大口物件などで P B 受注を目指し、初年度年間 6,000 枚の販売を見込んでおります。
- ④ その他、当社が現在注力しているケアシス（福祉介護商材）の新規投入・温水洗浄便座の新規モデル投入を、第 66 期中には予定しております。

これら、第 66 期への布石となる製品への投資を早めたために当初予定していた以上に金型・設備などの投資を行う事になったことになりました。それに伴い費用が 15 百万円増加することが見込まれます。

これらの理由により前回予想より売上高においては 270 百万円、営業利益においては 88 百万円それぞれ下回る見込みとなりました。また上記と同様の理由で経常利益においては 89 百万円、当期純利益においては 80 百万円それぞれ下回る見込みとなりました。

3. 通期個別業績予想の修正について

平成 27 年 11 月期通期(個別)業績予想数値の修正(平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,040	百万円 △35	百万円 △58	百万円 △4.01
今回修正予想(B)	2,780	△120	△135	△9.33
増減額(B-A)	△260	△85	△77	
増減率(%)	△8.6	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 11 月 期)	3,235	57	35	2.43

4. 通期個別業績予想修正の理由

上記の通期連結業績予想の修正と同様の理由により、通期個別業績予想についても修正を行う必要が生じたことによるものであります。

※上記の業績予想はつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。

予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上